

東光寺



だより

令和7年9月号
(2025)

● 結びに
―皆様と「共に」創る未来へ―



● これからの東光寺の歩み

● はじめに
―住職就任 挨拶―

合言葉は

「行きたくなるお寺 帰りたいくなる家 住み続けたいくなる地域」

住職就任

挨拶

就任のご報告とこれまでの経緯

檀信徒の皆様、並びに地域の皆様、日頃より東光寺の護持運営に対し、多大なるご理解とご協力を賜り、心より厚く御礼申し上げます。

この度、私、横山友宏は、臨済宗妙心寺派医王山東光寺の住職を拝命いたしました。併せて、先々代住職である横山尚空が「仏教の教えを幼少期に」との願いを込めて設立した、袖師保育園の園長も引き続き務めさせていただきます。お寺と保育園、双方の発展に誠心誠意尽力してまいります所存です。

ご存知のように、前住職が令和六年五月に脑梗塞で倒れてから、一年四ヶ月の長きにわたり、皆様には大変なご心配とご迷惑をおかけいたしました。私はその間、代務者として東光寺をお預かりしてまいりました。まさに手探りの日々であり、至らぬ点多々あったことと存じます。



支えていただいた日々への感謝を込めて

この間、多くの方に支えていただきながら法要や様々な行事を行いながら、法類寺院である興津・瑞雲院様、尾羽・松雲寺様、静岡・宝泰寺様、檀徒総代の皆様にご承認いただき、本山妙心寺へ住職変更の申請をいたしました。そして本山東光寺の住職交代の審議が行われ、交代が認められました。こうして正式に住職として皆様の前でご挨拶ができるということは、ひとえに皆様の温かいお力添えがあったからに他なりません。

先の見えない不安の中、親身にお声がけくださった各総代様をはじめとする檀信徒の皆様。変わらずお寺に足を運び、励ましの言葉をかけてくださった皆様。

そして、陰日向なく支えてくださった地域の皆様、関係寺院の皆様。皆様お一人おひとりからいただいたご厚情が、私の何よりの支えでありました。

この場をお借りし、改めて心からの感謝を申し上げます。



皆様と共に歩むための

「3つの約束」



皆様からいただいたこのご恩を胸に刻み、法灯を継承するにあたり、これからの東光寺が、誰もが安心して関われる場所であるために、住職として「3つの約束」を皆様にお誓いいたします。

説明します

仏教の教えや儀式の意味はもちろんのこと、お寺の運営等、皆様にご理解いただけるよう、誠心誠意ご説明いたします。ご不明な点は、どうぞ遠慮なくお尋ねください。

強制しません

ご寄付や行事へのご参加は、皆様一人ひとりのお気持ちとご判断を何よりも尊重いたします。お寺の側から何かを一方的に求めることはありません。

話を聴きます

お寺は、住職一人のものではなく、皆様と共にあります。皆様の声に真摯に耳を傾け、対話を重ねながら、皆様にとってより良いお寺のあり方を一緒に作ってまいります。

教員時代の学びから生まれた合言葉

上記3つの約束を胸に、「行きたくなるお寺 帰りたくなくなる家 住み続けたくなる地域」という合言葉を掲げ、今後の活動の羅針盤といたします。

私は中学校の教員時代、「行きたくなる学校・帰りたくなくなる家・住み続けたくなる地域」この三つがそろふことの重要性を学びました。

学校だけが、家庭だけが、地域だけががんばるのではなく、それぞれが連携しながら役割を果たすことで、子供たちが大きく成長する姿を目の当たりにしてまいりました。そして、東光寺で仏教の教えをお伝えする中で、その教えや習慣には、家庭、地域を安心できる場所にするヒントに満ちていることを実感いたしました。

行きたくなるお寺

帰りたくなくなる家

住み続けたくなる地域

「行きたくなるお寺」があれば、そこに集う方々と仏法とのご縁が結ばれるだけでなく、私たちの日々を支えてくれる温かなご縁が育まれていくと信じております。

だからこそ、私が今なすべきことは、皆様に「また行きたい」と思っていただけのお寺づくりには他なりません。

皆様にそう感じていただけるよう、お寺が、そして保育園が、地域全体の心の拠り所となることを目指し、この合言葉の実現に向け、一步一步、着実に歩んでまいります。今後の具体的な活動方針につきましては、次の項で詳しくご説明させていただきます。

どうぞ、これまでと変わらぬご指導ご鞭撻を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。



皆様の負担を軽減するために

長年の慣例でありました横砂地区の班制度を凍結いたしました。また、護持会費等も、班長様による集金を取りやめ、お振込みなどで納めていただけるよう変更いたしました。

快適な参拝環境を整えるために

雨の日でもお足元を汚すことのないよう、墓地（観音山霊場）の駐車場を砂利からアスファルトへと舗装いたしました。また、夏の法要なども心地よくお過ごしいただけるよう、本堂にエアコンを設置いたしました。

代務期間中の実践

先の「3つの約束」は、単なる理想ではありません。皆様にご安心いただくため、行動に移してきたことがいくつかございます。

これからの東光寺の歩み

―実践と展望―

情報交流を円滑にするために

お寺の予定を確認いただけるようにホームページを整備し、より身近な情報発信の手段として公式LINEを開設いたしました。また、各種行事の出欠席確認もオンラインで行えるようにし、皆様の手間を少しでも省けるよう努めております。

これらはまだ第一歩に過ぎませんが、今後も皆様の声に耳を傾け、より良いお寺となるよう、改善を続けてまいります。

皆様と共に歩む組織づくり

～「行きたくなるお寺」になるために～

お寺の運営をより透明性の高いものにするため、**総代会（責任役員会）の役割を明確化**し、皆様にご信頼いただける体制を整えます。（次ページに組織図と各会の説明を掲載しております。）

また、観音山の整備、子供の畑の整備、竹灯りイベント、寺子屋体験など、**目的別の企画係を設け、ご興味のある方が自主的に楽しくご参加いただけるような仕組みづくりを進めます。**各係の活動内容や、ご協力いただける方の募集方法につきましては、改めてホームページ等でご案内いたします。



未来への展望

皆様と共に「行きたくなるお寺」を創っていくため、今後の活動をより具体的に進めてまいります。

東光寺組織図

【檀信徒総会】

【運営委員会】

【総代会】

観音山整備
竹灯り
寺子屋体験・子供坐禅会
こどもの畑整備
観音菩薩・地藏菩薩供養
書画管理

本堂・境内の整備
大般若・開山忌・施餓鬼
写経会

●運営委員会（新設）

各行事の担当者、各企画係のメンバー、参加を希望される檀信徒等の有志で構成される。お寺の護持運営について自由に意見を出し合い、交流を深めるための開かれた場。

●檀信徒総会

すべての檀信徒の皆様がご参加いただく権利を有する会であり、総代の推薦などを行う。

●総代会（責任役員会）

住職及び、総代の皆様3名で構成される。宗教法人としての最終的な意思決定をする。



【第1回運営委員会について】

この新しい組織体制のもと、皆様と共に「行きたくなるお寺」を創り上げていくため、その第一歩として、下記の通り「第1回運営委員会」を開催させていただきます。

この会は、**檀信徒や東光寺の活動にご協力いただける方であればどなたでもご参加いただける会議**です。難しい話ばかりをする場ではありません。まずはお茶を飲みながら皆様と顔を合わせ、自己紹介をしながら、これからの東光寺について和やかにお話しできればと願っております。

皆様お一人おひとりの声を直接お聞かせいただく、大切な機会にしたいと考えておりますので、どうぞお気軽に足をお運びください。

1. 日時

令和7年9月30日（火）午後7時より

2. 場所

東光寺本堂、またはオンライン（オンライン希望の方はLINEにてお知らせください。）

3. 参加者

檀信徒、東光寺の活動に協力してくださる方ならどなたでも

これまで慣習として、各家から代表の方にご参加いただくことが多かったかと存じますが、これからはそうした慣例にとらわれる必要はありません。ご夫婦で、親子で、もちろんお一人で、東光寺を大切に思ってください方ならどなたでも大歓迎です。

4. 主な議題（案）

- ・住職挨拶（今後の活動方針について）
- ・新しい組織の役割について（運営委員会、各企画係で目指すこと）
- ・皆様からの自己紹介
- ・意見交換「これからの東光寺で、やってみたいこと・期待すること」
- ・今後の進め方について

5. 参加方法

お茶などの準備の都合上、ご参加いただける方は、お手数ですが9月28日（日）までに、公式LINEにて「運営委員会参加希望 ○○○○（ご自身の名前）」を明記し、送信してください。



【公式LINE】

皆様とお会いし、直接お話しできますことを、心より楽しみにしております。

お寺と保育園を 連携させて

先々代住職である横山尚空の思いを受け継ぎ、子供たちが仏様の教えに自然と触れられる環境づくりに力を注いでまいります。

園児たちが花まつりなどの仏教行事に参加したり、本堂で静かに坐る坐禅を体験したりと、日常的にお寺を訪れ、お寺を「第二の園庭」のように感じられる活動を推進します。また、地域へ開かれた「寺子屋体験」や「子供坐禅会」を活性化させ、卒園児や地域の子供たちが集い、学び、成長できる場を育んでまいります。



袖師保育園ホームページ↓



禅の教えに 触れ、

気づき、
生かす体験を



お寺は、忙しい日常から離れ、静かに自分と向き合うための大切な場所です。これまで通り、坐禅会や写経会、月に一度、自らの行いを戒め、清らかな心に立ち返る布薩会（ふさつえ）、観音曼陀羅供養、地藏菩薩供養などの定例行事を大切に続けてまいります。

また、法話会、ヨガや茶道、書道など、心と体を調えるための各種教室の開催も考えてまいります。皆様と共に学び、仏教の教えを分かち合える時間を楽しみにしております。各種教室はまだ構想段階です。講師の紹介やご意見等ありましたらお声がけください。

本堂を

より心安らぐ空間に

皆様のお参りの中心であるご本尊様がいらっしゃる本堂内の環境を、より心安らぐ空間となるよう整えてまいります。

そして、先々代住職、横山尚空が、皆様の心の拠り所としてお釈迦様の像を準備しておりましたが、長年注文した仏具屋様に預かっていただいていた状態です。このお釈迦様をお迎えしたいと考えております。



伝統と現代の供養の心をつないでいく

お葬式のこと、お墓のこと、お寺との関わり方など、知っているようで意外と知らない、分かったつもりで不安に思うことも多いかと存じます。そこで東光寺では、皆様のこうしたご不安にお応えするため、できるだけ早い時期に「お葬式・お墓の説明会」を開催したいと考えております。説明会では、基本的な事柄から丁寧にご説明し、皆様が日頃から疑問に思っていることを気軽に何でもご質問いただける場にいたします。

もちろん、日々の務めも疎かにはいたしません。皆様の大切なご先祖様、そして故人様を偲ぶ心を何よりも大切に、一つひとつのご葬儀やご法事を、心を込めて丁寧に行っていくことをお約束いたします。

また、時代の変化は、お墓のあり方にも影響を与えています。お墓の承継に関するお悩みや、永代供養をはじめとする様々なお墓の形についてなど、皆様が抱えるお墓に関するあらゆるご不安に寄り添い、真摯にご相談に応じてまいります。

説明会の開催日程が決まりましたら改めてご案内いたしますが、ご葬儀やお墓に関する個別のご相談は、いつでもお受けしております。詳しくはホームページの「法要」「お墓のこと」のページをご覧ください。直接お問い合わせください。



結びに ―皆様と「共に」創る未来へ―

山門の歴史に学び、

深く心に刻むこと

ここまで、私の思いと今後の活動について述べさせていただきました。この決意の根底には、東光寺の山門があります。

皆様もご存知の通り、この山門は近年新しくなりました。その建て替えに際しましては、皆様の多大なるご協力によって完成いたしましたこと、まずは心より御礼申し上げます。

しかし同時に、その過程においては、寄付のお願いの仕方などを巡り、皆様の中に様々な思いや戸惑いを生じさせてしまったことも事実かと存じます。当時、副住職という立場にありながら、皆様のお気持ちと先代住職との間で十分に調整を図れなかった私の未熟さを、今なお深く反省しております。**この度の住職就任は、この時の反省から再出発するという、私自身の固い誓いでもあります。**

私がこの山門の歴史を紐解く時、心を深く打たれるのは、次のような言い伝えです。

東光寺の山門はなぜ格子なのか？

昔、大雨で川が増水したため、天皇の使いである勅使（ちよくし）が東光寺にお泊まりになることになりました。しかし、位の高い

方は門のない場所には泊まれないという決まりがある中、当時のお寺には門がなく…

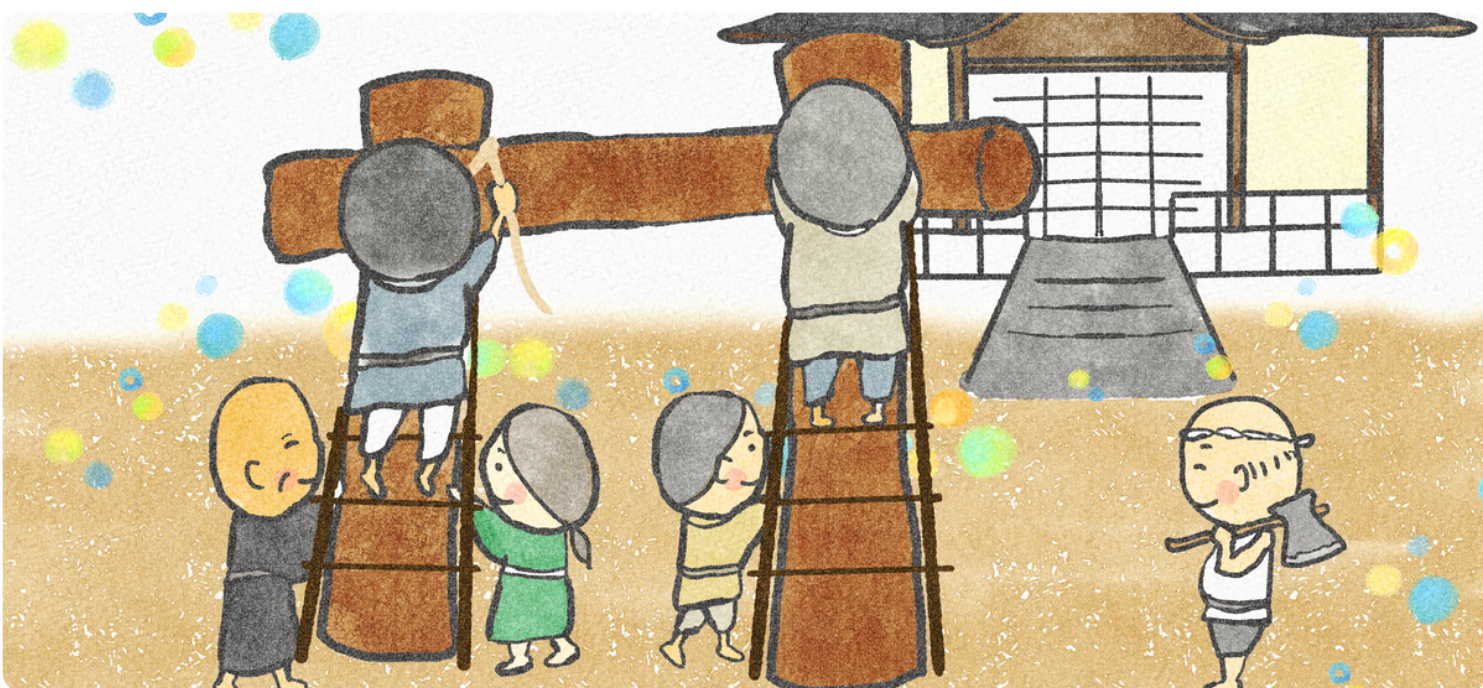
この一大事、どう乗り切ったのか？

それは、当時の村人たちが総出で力を合わせ、丸太で格子を組み、見事な門を急ぎ造り上げた、と伝えられております。

この歴史をどう捉えるか

「勅使が泊まった格式あるお寺」と見ることもできます。しかし、**私が何よりも尊いと感じ、大切にしたいのは、お寺の一大事を「自分たちのこと」として捉え、村の人々が総出で知恵と力を出し合っ****てくださった、その温かい心です。**この山門は、まさしく「地域の方々に大切にされ、支えられてきた東光寺の歴史」そのものの象徴であったはずで

す。だからこそ、私は先にお誓いした「強制しない」という約束を、何よりも固く守ってまいります。「村人が総出で」という言葉の本当の意味は、一人ひとりの自発的な「お寺を大切に思う気持ち」が集うことであり、決して無理なお願ひから生まれるものではないと信じております。



檀信徒の皆様、地域の皆様へお願い

この「村人が総出で」という先人たちの心のもと、檀信徒の皆様、そして地域の皆様に、改めてご協力をお願い申し上げます。

伝統行事の護持運営や、子供たちのための「寺子屋」のお手伝い。あるいは、お寺や保育園が主催する地域交流企画へのご参加。関わり方は、人それぞれで構いません。皆様の自主的なお力添えが、お寺の未来を創ります。

私たちの目指す「行きたくなるお寺 帰りたいくなる家 住み続けたいくなる地域」という未来は、お寺と保育園、そして地域の皆様が手を取り合ってこそ、実現できるものです。

東光寺が、子供たちの健やかな成長を見守り、世代を超えた人々が集う「仏教の教えを大切にする地域の拠点」となれるよう、皆様のお力をお貸しください。

未来へ向けて

住職としての歩みは、まだ始まったばかりです。若輩者ゆえ、至らぬ点多々あるかと存じますが、皆様からのご指導をいただきながら、一步一步、精一杯務めてまいります。

子供たち、そして地域全体の明るい笑顔を中心に、皆様と共に、この東光寺の新たな歴史を創り上げていけることを、心より願っております。

今後とも、どうぞよろしくお願い申し上げます。

ホームページ

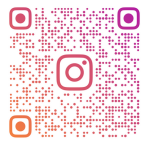


発行・編集
臨済宗妙心寺派
医王山 東光寺
住職 横山友宏
横山由馨

公式LINE



Instagram



YOKOZENJI_YOKOSUNA_SHIMIZU

法事のお申込みは
フォームが便利です



【法事申込フォーム】

寺葬

東光寺本堂にて
お通夜・お葬儀

執り行います

